

シニアレジデント GIO (General Instructional Objective) :

乳腺疾患の検査、診断、治療を患者に説明し、十分な理解を得たうえで実行できる。

シニアレジデント SBO (Specific Behavioral Objectives) :

(1) 外来・入院診療技術

1. 男性乳腺患者の女性化乳房と乳癌の違いを説明できる。(知)
2. 乳癌患者の触診所見を説明できる(知、技)
3. 乳癌患者の MMG 読影ができる(知、技)
4. 乳癌患者の US 読影ができる(知、技)
5. 乳癌の確定診断をするに必要なサンプル採取の方法を患者の病態にあわせて選択できる。(知、技)
6. 乳癌の進行状況が把握でき、遠隔転移検索が必要と考えられる患者を抽出できる。(知、技)
7. 乳癌の進行状況が把握でき、術前化学療法への適応を理解し、実施できる。(知、技)
8. 乳癌の進行状況が把握でき、温存手術への適応を説明でき、実施できる。(知、技)
9. 乳癌手術予定患者の全身状態の把握とそれに必要な検査プランが立てられる。(知、技)
10. 乳癌手術予定患者の以下の合併疾患について対応できる；高血圧、虚血性心疾患、心不全、不整脈等の心疾患、喘息などの呼吸機能障害、肝・腎臓疾患、糖尿病、脳卒中、中止あるいは変更すべき薬剤、薬物アレルギーの有無(知、技)
11. 乳癌温存手術実施にあたり、病変の範囲把握のために必要な検査を説明でき、それに応じて治療プランを判断できる。(知、技)
12. 患者の病態にあわせて適切な手術術式の方針をたてられる。(知、技)
13. 乳癌患者の病気や治療に対する不安を理解し、それに対して適切に対応できる。(知、技、態)
14. 良性疾患患者の触診所見を説明できる(知、技)
15. 良性疾患患者の MMG 読影ができる(知、技)
16. 良性疾患患者の US 読影ができる(知、技)
17. 良性疾患の確定診断をするに必要なサンプル採取の方法を患者の病態にあ

わせて選択できる。(知、技)

18. 良性疾患患者のその後のプランをたてられる。(知、技)
19. MRI の適応を説明できる。(知、技)
20. MRI 実施上の注意すべき点を説明できる。(知、技)
21. 乳管造影の適応を説明できる。(知、技)
22. 乳管内視鏡の適応を説明できる。(知、技)
23. ステレオガイド下マンモトームの適応を説明できる。(知、技)
24. エコー下マンモトームの適応を説明できる。(知、技)
25. 乳腺疾患の造影 CT の役割を説明できる。(知、技)
26. Occult breast cancer 検査と治療方針を説明できる。(知、技)
27. 温存術後放射線療法の適応を説明できる。(知、技)
28. 温存術後残乳切の適応を説明できる。(知、技)
29. St Gallen の recommendation、および日本の状況に応じて術後患者を分類し、適切な補助療法のプランを立てることができる。(知、技)
30. 術後補助化学療法の目的、有効性さらに適応を説明できる (知、技)
31. 術後補助化学療法の副作用を説明できる (知、技)
32. 抗癌剤の処方ができる。(知、技)
33. 乳癌補助内分泌療法の目的、有効性さらに適応を説明できる (知、技)
34. 乳癌補助内分泌療法副作用を説明できる。(知、技)
35. 乳癌遠隔転移好発部位を説明でき、合理的な検査プランを立てられる。(知、技)

(2) 病理学的知識

36. 非浸潤癌の確定診断の方法を説明できる。(知、技)
37. 非浸潤癌の治療方針について説明できる。(知、技)
38. 粘液癌の特徴的な触診所見、MMG 所見、US 所見を説明できる。(知、技)
39. 粘液癌を 2 型に分類して、それぞれの予後について説明できる。(知、技)
40. 浸潤性小葉癌の特徴的な触診所見、MMG 所見、US 所見を説明できる。(知、技)
41. 過誤腫の特徴的な触診所見、MMG 所見、US 所見を説明できる。(知、技)

(3) 検査技術

42. US ガイド下 FNA において病理学的知識に基づいて合理的な部分の細胞採取することができる。(知、技)

43. 術前に生検が必要な乳癌患者を同定できる。(知、技)
44. 乳癌患者に core needle biopsy が実施できる。(知、技)
45. 乳癌患者に対して病態にあわせて局所麻酔下生検術式を選択できる。(知、技)
46. 乳管造影が実施できる。(知、技)
47. 乳管造影の読影ができる。(知、技)
48. 乳管内視鏡を実施できる。(知、技)
49. ステレオガイド下マンモトームを実施できる。(知、技)
50. エコー下マンモトームを実施できる。(知、技)

(4) 手術技術 (主に局所麻酔で行うもの)

51. 乳腺腫瘍摘出の基本的アプローチ方法を説明できる。(知、技)
52. 超音波描出可能な非浸潤癌の手術方法を説明でき、実践できる。(知、技)
53. 微細石灰化を主徴とする非浸潤癌の手術方法を説明でき、実践できる。(知、技)
54. フックワイヤー挿入の手順を説明でき、実践できる。(知、技)
55. 乳頭分泌症例に対する乳管腺葉区分切除術の手術が実践できる。(知、技)
56. 嚢胞内腫瘍の基本的手術方法を説明でき、実践できる。(知、技)
57. 嚢胞内腫瘍の検体処理方法を説明でき、実践できる。(知、技)

(5) 手術技術 (主に全身麻酔で行うもの)

58. 乳癌手術の手順におけるセンチネルリンパ節同定の手順を説明でき、実践できる。(知、技)
59. 病変の広がりを考慮しつつ、閉創時に皮弁が寄せられるように、皮膚切開のマーキングができる。(知、技)
60. 皮弁を病変との関係を考慮しつつ適切な厚みで作成できる。(知、技)
61. 乳腺脱転時の注意点について説明できる。(知、技)
62. 下胸筋神経の温存ができる。(知、技)
63. 鎖骨下静脈とその分枝が同定できる。(知、技)
64. Level II リンパ節の郭清の手順を説明でき、実施できる。(知、技)
65. Kodama の手術の臨床的意義を説明できる。(知、技)
66. Kodama の手術方法、使用器具、鉤の使用方法、郭清すべき対象を説明でき、実践できる。(知、技)
67. 胸背動静脈神経を同定でき、その他の切離すべき血管を同定できる。(知、

技)

68. 肋間上腕神経を温存することができる。(知、技)

69. 長胸神経を同定でき、温存できる。(知、技)

70. 腋窩深部の同定ができる。(知、技)

71. ドレーンが挿入できる。(知、技)

72. 後出血に対して適切な診断と対処ができる。(知、技)

(6) 医療過誤を防ぐ

73. 乳癌の誤診を防ぐための努力、工夫を説明できる。とくに FNA、CNB、外科的生検法の得失を理解する。(知、技)

(7) 患者、家族との関係

74. 患者、家族に病態状況、治療方針について把握し、IC できる。(知、技、態)

(8) 学術

75. 英文論文作成ができる。(知、技)

76. 乳癌学会認定医資格を取得できる。(知、技)

77. 乳癌学会専門医資格を取得できる。(知、技)

78. EBM を理解でき、臨床に応用できる。(知、技、態)

乳腺外科 評価表

(レジデント/シニアレジデント) 名前:

レジデント 目標48項目	3=よくできた 2=ある程度できようになった 1=少しできた 0=まったくできなかった		自己評価 指導医評価 指導医名 ()	自己評価<指導医評価=○ 自己評価>指導医評価=△ 自己評価と指導医評価が ともに3点=◎ 差 (自己評価-指導医評価)
	自己評価	指導医評価		
(1) 外来 入院診療技術				
1. 検診患者の所見がとれて、必要な検査がオーダーできる。(知、技)	3	2	1	0
2. 腫瘤自覚患者の病歴が作成できカルテに記載できる。(癌研式に赤胄を用いる)(知、技)	3	2	1	0
3. 腫瘤自覚患者の記載すべき所見を列挙して、カルテに記載できる。(知、技、態)	3	2	1	0
4. 腫瘤自覚患者の必要な検査がオーダーできる。(知、技)	3	2	1	0
5. 乳頭分泌患者の多孔性乳頭分泌と単孔性乳頭分泌の病態の違いを説明できる。(知、技)	3	2	1	0
6. 乳頭分泌患者の注意すべき乳頭分泌の性状と量のポイントを説明できる。(知、技)	3	2	1	0
7. 乳頭分泌患者の記載すべきポイントをあげられ、カルテに記載できる。(知、技)	3	2	1	0
8. 乳頭分泌患者のオーダーすべき検査を列挙できる。(知、技)	3	2	1	0
9. 微細石灰化患者の明らかでない石灰化との区別ができる。(知、技)	3	2	1	0
10. 微細石灰化患者のオーダーすべき検査を列挙できる。(知、技)	3	2	1	0
11. 男性乳腺患者の問診上確認しなければならぬ項目を列挙でき、実践できる。	3	2	1	0
12. 豊胸術後患者のトラブルがよりうる検査が指摘でき、注意を払うことができる。(知)	3	2	1	0
13. 豊胸術後患者の一般検査と異なったオーダーをすることができ。(知)	3	2	1	0
14. 乳箱下腫瘍患者に合併しやすい視診上の特徴をあげられる。(知)	3	2	1	0
15. 乳腺炎患者の正しく診断することができ。(知、技)	3	2	1	0
16. 初診患者で検査と治療の急ぐ患者とそうでない患者の判断ができる。(知、技)	3	2	1	0
17. 乳癌患者の術前サマリーを作成できる。(知、技)	3	2	1	0
18. 抗癌剤点滴ルーートの確保ができる。(知、技)	3	2	1	0
(2) 病理学的知識				
19. 非浸潤癌の予後について説明できる。(知)	3	2	1	0
20. Paget病とPagetoid癌との区別を説明できる。(知)	3	2	1	0
21. Paget病の予後を説明できる。(知)	3	2	1	0
22. 乳頭腺癌の特徴的な触診所見、MMG所見、US所見を説明できる。(知、技)	3	2	1	0
23. 充実腺癌の特徴的な触診所見、MMG所見、US所見を説明できる。(知、技)	3	2	1	0
24. 硬癌の特徴的な触診所見、MMG所見、US所見を説明できる。(知、技)	3	2	1	0
25. 線維腺腫の特徴的な触診所見、MMG所見、US所見を説明できる。(知、技)	3	2	1	0
26. 葉状腫瘍の特徴的な触診所見、MMG所見、US所見を説明できる。(知、技)	3	2	1	0
27. 葉状腫瘍を3型に分類できる。(知)	3	2	1	0
(3) 検査技術				
28. 乳癌患者にFNAが実施できる。(知、技)	3	2	1	0

29.	FNAの良質なサンプル採取の技術を知っていて、実践できる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
30.	乳癌患者USガイドFNAが実施できる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
(4) 手術技術 (主に局所麻酔で行うもの)									
31.	皮膚に近い乳腺腫瘍摘出が実践できる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
(5) 手術技術 (主に全身麻酔で行うもの)									
32.	術中出血量を少なくするための麻酔科サイドの工夫を説明できる。(知)	3	2	1	0	3	2	1	0
33.	乳癌の手術がやりやすい様に体位をとることができる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
34.	手術に必要な体表のメルクマールにマーキングができる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
35.	メスで適切な皮膚切開ができる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
36.	閉創ができる。特に吸引糸による連続埋没縫合ができる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
(6) 標本整理についての知識									
37.	ホルモン受容体発現状況を知る意義と測定方法を説明でき、実際にサンプルを採取することができる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
38.	癌研独自のリンパ節の標本整理ができる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
39.	温存手術検体の標本整理ができる。特にsurgical marginが病理医に同定しやすいようするための標本整理上の工夫を説明でき、実践できる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
40.	乳切手術検体の標本整理ができる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
(7) 医療過誤を防ぐ									
41.	左右を間違えて手術しないための工夫を説明できる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
42.	患者や検体のとり間違いをしないための工夫を説明できる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
(8) 患者、家族との関係									
43.	患者、家族に対して病態状況、治療方針のICを指導医のもとに実施できる。(知、技、態)	3	2	1	0	3	2	1	0
(9) 手術									
44.	文献検索ができる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
45.	特殊な症例についてのプレゼンテーションができる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
46.	乳腺に関連したテーマについてプレゼンテーションができる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
47.	学会報告ができる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
48.	邦文論文作成できる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
総計									
				/144				/144	
修得率				%				%	
意欲、態度、協調性5点満点									
総合点100点満点中									

シニアレジデント 目標78項目

(1) 外来・入院診療技術									
1.	男性乳癌患者の女性化乳房と乳癌の違いを説明できる。(知)	3	2	1	0	3	2	1	0
2.	乳癌患者の触診所見を説明できる(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0

3	3. 乳癌患者のMMG読影ができる (知、技)	3 2 1 0	3 2 1 0	3 2 1 0
4	4. 乳癌患者のUS読影ができる (知、技)	3 2 1 0	3 2 1 0	3 2 1 0
5	5. 乳癌の確定診断をするに必要なサンプル採取の方法を患者の病態にあわせて選択できる。 (知、技)	3 2 1 0	3 2 1 0	3 2 1 0
6	6. 乳癌の進行状況が把握でき、遠隔転移検査が必要と考えられる患者を抽出できる。 (知、技)	3 2 1 0	3 2 1 0	3 2 1 0
7	7. 乳癌の進行状況が把握でき、術前化学療法法の適応を理解し、実施できる。 (知、技)	3 2 1 0	3 2 1 0	3 2 1 0
8	8. 乳癌の進行状況が把握でき、温手術の適応を説明でき、実施できる。 (知、技)	3 2 1 0	3 2 1 0	3 2 1 0
9	9. 乳癌手術予定患者の全身状態の把握とそれに必要な検査プランが立てられる。 (知、技)	3 2 1 0	3 2 1 0	3 2 1 0
10	10. 乳癌手術予定患者の以下の合併疾患について対応できる；高血圧、虚血性心疾患、心不全、不整脈等の心疾患、喘息などの呼吸機能障害、肝・腎臓疾患、糖尿病、脳卒中、中止あるいは変更すべき薬剤、薬物アレルギーの有無 (知、技)	3 2 1 0	3 2 1 0	3 2 1 0
11	11. 乳癌温存手術実施にあたり、病変の範囲把握のために必要な検査を説明でき、それに応じて治療プランを判断できる。 (知、技)	3 2 1 0	3 2 1 0	3 2 1 0
12	12. 患者の病態にあわせて適切な手術術式の方針をたてられる。 (知、技)	3 2 1 0	3 2 1 0	3 2 1 0
13	13. 乳癌患者の病態や治療に対する不安を理解し、それに対して適切に対応できる。 (知、技、態)	3 2 1 0	3 2 1 0	3 2 1 0
14	14. 良性疾患患者の触診所見を説明できる (知、技)	3 2 1 0	3 2 1 0	3 2 1 0
15	15. 良性疾患患者のMMG読影ができる (知、技)	3 2 1 0	3 2 1 0	3 2 1 0
16	16. 良性疾患患者のUS読影ができる (知、技)	3 2 1 0	3 2 1 0	3 2 1 0
17	17. 良性疾患の確定診断をするに必要なサンプル採取の方法を患者の病態にあわせて選択できる。 (知、技)	3 2 1 0	3 2 1 0	3 2 1 0
18	18. 良性疾患患者のその後のプランをたてられる。 (知、技)	3 2 1 0	3 2 1 0	3 2 1 0
19	19. MRIの適応を説明できる。 (知、技)	3 2 1 0	3 2 1 0	3 2 1 0
20	20. MRI実施上の注意すべき点を説明できる。 (知、技)	3 2 1 0	3 2 1 0	3 2 1 0
21	21. 乳管造影の適応を説明できる。 (知、技)	3 2 1 0	3 2 1 0	3 2 1 0
22	22. 乳管内視鏡の適応を説明できる。 (知、技)	3 2 1 0	3 2 1 0	3 2 1 0
23	23. ステレオガイド下マンモトームの適応を説明できる。 (知、技)	3 2 1 0	3 2 1 0	3 2 1 0
24	24. エコー下マンモトームの適応を説明できる。 (知、技)	3 2 1 0	3 2 1 0	3 2 1 0
25	25. 乳腺疾患の造影CTの役割を説明できる。 (知、技)	3 2 1 0	3 2 1 0	3 2 1 0
26	26. Occult breast cancer検査と治療方針を説明できる。 (知、技)	3 2 1 0	3 2 1 0	3 2 1 0
27	27. 温存術後放射線療法法の適応を説明できる。 (知、技)	3 2 1 0	3 2 1 0	3 2 1 0
28	28. 温存術後残乳切の適応を説明できる。 (知、技)	3 2 1 0	3 2 1 0	3 2 1 0
29	29. St Gallenのrecommendation、および日本の状況に応じて術後患者を分類し、適切な補助療法法のプランを立てることができる。 (知、技)	3 2 1 0	3 2 1 0	3 2 1 0
30	30. 術後補助化学療法法の目的、有効性さらに適応を説明できる (知、技)	3 2 1 0	3 2 1 0	3 2 1 0
31	31. 術後補助化学療法法の副作用を説明できる (知、技)	3 2 1 0	3 2 1 0	3 2 1 0
32	32. 抗癌剤の処方ができる。 (知、技)	3 2 1 0	3 2 1 0	3 2 1 0
33	33. 乳癌補助内分泌療法法の目的、有効性さらに適応を説明できる (知、技)	3 2 1 0	3 2 1 0	3 2 1 0

34.	乳癌補助内分泌療法副作用を説明できる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
35.	乳癌遠隔転移好発部位を説明でき、合理的な検査プランを立てられる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
(2) 病理学的知識									
36.	非浸潤癌の確定診断の方法を説明できる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
37.	非浸潤癌の治療方針について説明できる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
38.	粘液癌の特徴的な触診所見、MMG所見、US所見を説明できる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
39.	粘液癌を2型に分類して、それぞれの予後について説明できる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
40.	浸潤性小葉癌の特徴的な触診所見、MMG所見、US所見を説明できる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
41.	過誤腫の特徴的な触診所見、MMG所見、US所見を説明できる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
(3) 検査技術									
42.	USガイド下FNAにおいて病理学的知識に基づいて合理的な部分の細胞採取することができる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
43.	術前に生検が必要な乳癌患者を同定できる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
44.	乳癌患者にcore needle biopsyが実施できる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
45.	乳癌患者に対して病態にあわせて局所麻酔下生検術式を選択できる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
46.	乳管造影が実施できる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
47.	乳管造影の読影ができる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
48.	乳管内視鏡を実施できる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
49.	ステレオガイド下マンモトームを実施できる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
50.	エコー下マンモトームを実施できる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
(4) 手術技術(主に局所麻酔で行うもの)									
51.	乳腺腫摘出の基本的アプローチ方法を説明できる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
52.	超音波描出可能な非浸潤癌の手術方法を説明でき、実践できる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
53.	微細石灰化を主徴とする非浸潤癌の手術方法を説明でき、実践できる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
54.	フックワイヤー挿入の手順を説明でき、実践できる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
55.	乳頭分泌症例に対する乳管腺葉区分切除術の手術が実践できる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
56.	嚢胞内腫瘍の基本的手術方法を説明でき、実践できる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
57.	嚢胞内腫瘍の検体処理方法を説明でき、実践できる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
(5) 手術技術(主に全身麻酔で行うもの)									
58.	乳癌手術の手順におけるセンチネルリンパ節同定の手順を説明でき、実践できる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
59.	病変の広がりや考慮しつつ、閉創時に皮弁が寄せられるように、皮膚切開のマーキングができる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
60.	皮弁を病変との関係を考慮しつつ適切な厚みで作成できる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
61.	乳腺脱転時の注意点について説明できる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
62.	下胸筋神経の温存ができる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
63.	鎖骨下静脈とその分枝が同定できる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
64.	Level IIリンパ節の郭清の手順を説明でき、実施できる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
65.	Kodamaの手術の臨床的意義を説明できる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0

66.	66. Kodamaの手術方法、使用器具、鉤の使用方法、郭清すべき対象を説明でき、実践できる。 (知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0	
67.	67. 胸背動脈神経を同定でき、その他の切離すべき血管を同定できる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0	
68.	68. 肋間上腕神経を温存することができる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0	
69.	69. 耳胸神経を同定でき、温存できる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0	
70.	70. 腋窩深部の同定ができる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0	
71.	71. ドレーンが挿入できる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0	
72.	72. 後出血に対して適切な診断と対処ができる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0	
(6) 医療過誤を防ぐ										
73.	73. 乳癌の誤診を防ぐための努力、工夫を説明できる。とくにFNA、CNB、外科的生検法の得失を理解する。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0	
(7) 患者、家族との関係										
74.	74. 患者、家族に病態状況、治療方針について把握し、ICできる。(知、技、態)	3	2	1	0	3	2	1	0	
(8) 学術										
75.	75. 英文論文作成ができる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0	
76.	76. 乳癌学会認定医資格を取得できる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0	
77.	77. 乳癌学会専門医資格を取得できる。(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0	
78.	78. EBMを理解でき、臨床に応用できる。(知、技、態)	3	2	1	0	3	2	1	0	
総計										
	78項目=234点満点					/234				
	修得率					%				
	意欲、態度、協調性 5点満点					%				
	総合点100点満点中									

<講 評>

婦人科

癌研究会附属病院婦人科レジデント研修目標

GIO(総合目標)

性器の主要な悪性腫瘍ならびにその関連病変の診断と治療の原則を理解する。主要な悪性腫瘍の標準的治療と治療後の管理に必要な知識・技能・態度を身につけ、悪性腫瘍患者に対し全人的医療を実施する。

良性腫瘍

GIO (一般目標)

性器の主要な良性腫瘍の診断，治療の原則を理解し，性機能・生殖機能の観点に立って適切な診療を実施できる。また乳房疾患を広義の性腺の疾患として理解し，良性・悪性の鑑別診断を行うために必要な知識・技能を持つことができる。

SBO (行動目標)

1. 外陰ジストロフィーについて説明できる (知)
2. バルトリン腺嚢胞について説明できる (知)
3. 尿道カルンケルについて説明できる (知)
4. 腱疾患について説明できる (知)
5. 子宮筋腫について説明できる (知)
6. 子宮腺筋症について説明できる (知)
7. 子宮内膜増殖症について説明できる (知)
8. 子宮内膜ポリープについて説明できる (知)
9. 子宮頸管ポリープについて説明できる (知)
10. 卵巣良性腫瘍について説明できる (知)
11. 卵巣類腫瘍性疾患について説明できる (知)
12. 卵巣上体嚢胞について説明できる (知)
13. 子宮内膜症 (内性、外性) について説明できる (知)
14. 乳腺症について説明できる (知)
15. 乳腺線維腺腫について説明できる (知)
16. 管内乳頭腫について説明できる (知)
17. 視診，触診，双合診が実施できる (知・技)
18. 超音波検査法を実施し、その結果を評価できる (知・技)
19. 子宮卵管造影法を実施し、その結果を評価できる (知・技)
20. 子宮腔部細胞診を実施し、その結果を評価できる (知・技)
21. 子宮内膜細胞診を実施し、その結果を評価できる (知・技)
22. コルポスコピーを実施し、その結果を評価できる (知・技)

23. 組織生検を実施し、その結果を評価できる (知・技)
24. 子宮鏡をできるだけ自ら経験し、その結果を評価できる (知・技)
25. 腹腔鏡をできるだけ自ら経験し、その結果を評価できる (知・技)
26. 手術摘出材料の取扱いを理解し、病理組織検査材料を提出することができる (知・技)
27. 薬物療法の適応と限界を知り、適正な治療を実施することができる (知・技)

悪性腫瘍

GIO(一般目標)

性器の主要な悪性腫瘍ならびにその関連病変の診断と治療に必要な検査を系統的に理解し、婦人科医自身が行うべき検査、特に早期診断法、癌検診法 (乳癌検診を含む) を実施できる。。また主要な悪性腫瘍の標準的治療と治療後の管理に必要な知識・技能・態度を身につけることができる。

SBO(行動目標)

28. 疫学について説明できる (知)
29. 病理について説明できる (知)
30. 初期病変について説明できる (知)
31. 症状について説明できる (知)
32. 早期診断について説明できる (知)
33. 進行期分類 (FIGO, TNM)について説明できる (知)
34. 予後因子について説明できる (知)
35. 治療方針決定と治療法について説明できる (知)
36. 治療後の管理・再発診断について説明できる (知)
37. 予後について説明できる (知)
38. 癌検診 (頸癌, 体癌, 乳癌) について説明できる (知)
39. 外陰癌について説明できる (知)
40. ページェット病について説明できる (知)
41. ヒトパピローマウイルス関連病変について説明できる (知)
42. 膣癌について説明できる (知)
43. 子宮頸部異形成について説明できる (知)
44. 子宮頸癌について説明できる (知)
45. 異型子宮内膜増殖症について説明できる (知)
46. 子宮体癌について説明できる (知)
47. 子宮肉腫について説明できる (知)

48. 絨毛性疾患について説明できる (知)
49. 卵巣悪性腫瘍について説明できる (知)
50. 卵管癌について説明できる (知)
51. 乳癌について説明できる (知)
52. 乳頭癌について説明できる (知)
53. 病理組織の採取を実施しその結果を評価することができる (知・技)
54. 細胞診を実施しその結果を評価することができる (知・技)
55. コルポスコピーを実施しその結果を評価することができる (知・技)
56. 超音波断層法を実施しその結果を評価することができる (知・技)
57. 腫瘍マーカーを実施しその結果を評価することができる (知・技)
58. 尿路造影を実施しその結果を評価することができる (知・技)
59. CTを実施しその結果を評価することができる (知・技)
60. MRIを実施しその結果を評価することができる (知・技)
61. 血管造影法を実施しその結果を評価することができる (知・技)
62. シンチグラムを実施しその結果を評価することができる (知・技)
63. 膀胱鏡を実施しその結果を評価することができる (知・技)
64. 直腸鏡を実施しその結果を評価することができる (知・技)
65. 手術の適応, 薬剤の選択, 標準的投与方法, 効果判定方法を理解し, 副作用に対応できる (知, 技) .
66. 絨毛性疾患, 卵巣癌の治療の適応と限界を知り, 適正な治療を実施することができる (知・技)
67. 頸癌, 体癌の治療の適応と限界を知り, 適正な治療を実施することができる (知・技)
68. 外陰癌, 肉腫などの治療の適応と限界を知り, 適正な治療を実施することができる (知・技)
69. 再発腫瘍に対する治療について説明できる (知)
70. 癌疼痛治療の実施でき, ターミナルケアの意義について説明できる (知・技)
71. 患者・家族に対するinformed consent (説明と同意) に留意し, 患者のquality of life (QOL) を尊重して診療を行い, ターミナルケアをも含めて, 暖かい心を持って全人的に対応できる (知・技・態)

病理

G10 (一般目標)

婦人性器の基本的な病理学的所見を理解し, 適切な診断, 治療方針の決定に供し得るために必要な知識・技能を獲得できる

SBO（行動目標）

72. 子宮内膜の周期的変化の病理組織学所見について説明できる（知）
73. 性器の炎症性疾患の病理組織学所見について説明できる（知）
74. ヒトパピローマウイルス関連病変，腹部びらん，頸部異形成，頸部上皮内癌（carcinoma in situ；CIS），微小浸潤癌，子宮頸癌の肉眼所見ならびに病理組織学所見について説明できる（知）
75. 子宮筋腫，子宮内膜症，子宮内膜増殖症，子宮体癌，子宮肉腫の肉眼所見ならびに病理組織学所見について説明できる（知）
76. 卵巣腫瘍，卵管腫瘍の肉眼所見ならびに病理組織学所見について説明できる（知）
77. 絨毛性疾患の肉眼所見ならびに病理組織学所見について説明できる（知）
78. 外陰ジストロフィー，ページェット病，外陰癌，膣癌の肉眼所見ならびに病理組織学所見について説明できる（知）
79. 乳腺症，乳癌の肉眼所見ならびに病理組織学所見について説明できる（知）
80. 性器とくに子宮頸部ならびに子宮内膜の上皮細胞の基本的構造，悪性細胞の一般的な診断基準，判定分類とその推定組織病変について説明できる（知）
81. 性器炎症性疾患の細胞診の意義を理解し，その結果に基づいて患者の取扱いについて指示することができる（知・技）
82. 内分泌細胞診の意義を理解し，その結果に基づいて患者の取扱いについて指示することができる（知・技）
83. 腹水細胞診，穿刺細胞診の意義を理解し，その結果に基づいて患者の取扱いについて指示することができる（知・技）
84. 子宮頸部狙い生検，頸管内膜搔爬を行うために必要な手技・措置を講じることができる（知・技）
85. 子宮体部内膜搔爬を行うために必要な手技・措置を講じることができる（知・技）
86. 手術摘出材料の観察と取扱いができる（知・技）
87. 主要病変の典型的な病理学的所見を理解できる（知・技）
88. 剖検を見学し，必要な手続きができる（知・技）
89. 細胞診検体の採取と取扱い，頸痛の典型的細胞診所見を説明できる（知・技）
90. 細胞診におけるその他の主要な悪性腫瘍の典型的所見を理解できるを説明できる（知・技）

婦人科手術

GIO（一般目標）

術前・術後の全身管理を適切に行えるようになるために，術前検査と術中・術後のリ

スクの可能性について理解し、適切な検査と処置を実施するのに必要な知識・技能・態度を獲得できる。手術の目的と適応、局所解剖を十分に理解し、手術に参加するのに必要な知識・技能・態度を獲得できる

SBO（行動目標）

91. 婦人科治療における手術の位置づけと意義を説明できる（知）
92. 術前検査の必要性を理解し、個々の患者のリスク（心・循環器系、呼吸器系、消化器系、代謝・内分泌系、妊婦および高齢婦人）について説明できる（知）
93. 術中のリスクを評価し、必要な治療・措置について述べることができる。
94. 手術の安全性およびリスクを評価し、必要な治療・措置について説明できる（知）
95. 手術時の不適当な消毒や機器、器具操作によるリスクについて説明できる（知）
96. 術中の操作、さらに術中・術後の合併症に関わるリスクについて説明できる（知）
97. 術後のリスクについて理解し、具体的に述べることができる。
98. 手術終了後の心・循環機能・呼吸機能・尿路機能のモニター、感染のチェックについて理解し、具体的に説明できる（知）
99. 術後感染、術後出血とショック、術後乏尿、口区吐、誤飲による窒息などの合併症について理解し、具体的に説明できる（知）
100. disseminated intravascular coagulation (DIC) などの重篤合併症について理解し、具体的に説明できる（知）
101. その他、術後数時間以内に発生しうる偶発合併症について理解し、具体的に説明できる（知）
102. 目的とする手術の術前・術中・術後に、手術の遂行の際生ずる個々のリスクに応じた対応をすることができる（知・技）
103. 手術の必要性、術式、麻酔法の選択ならびに術中・術後のリスクなどについて、患者・家族に対するinformed consent（説明と同意）を得られるよう全人的に対応できる（知・技・態）
104. 手術が患者の生死に関わること、機能温存、改善に関わること、苦痛、愁訴、満足度に関わることなどについて、その目的を理解し、説明することができる（知）
105. 手術に関連した局所解剖を十分に理解し、説明できる（知）。
106. 主治医として以下の手術を執刀することができる。
107. 腹式単純子宮全摘出術を主治医として執刀することができる（知・技）
108. 腹式単純子宮全摘出術を主治医として執刀することができる（知・技）
109. 子宮筋腫核出術を主治医として執刀することができる（知・技）
110. 子宮腔部円錐切除術を主治医として執刀することができる（知・技）
111. 子宮頸管形成術を主治医として執刀することができる（知・技）

- 112. 頸管ポリープ切除術を主治医として執刀することができる (知・技)
- 113. 子宮脱手術を主治医として執刀することができる (知・技)
- 114. 付属器摘出術を主治医として執刀することができる (知・技)
- 115. 卵巣腫瘍核出術 (切除術) を主治医として執刀することができる (知・技)
- 116. レーザー手術をできるだけ主治医として以下の手術を執刀することができる (知・技)
- 117. 腹腔鏡下手術をできるだけ主治医として以下の手術を執刀することができる (知・技)
- 118. 広汎性子宮全摘出術の手術の助手をつとめることができる (知・技)
- 119. 準広汎性 (拡大単純) 子宮全摘出術の手術の助手をつとめることができる (知・技)
- 120. 卵巣癌根治手術の手術の助手をつとめることができる (知・技)
- 121. セカンドルック手術 (Secondlookoperation ; SLO) の助手をつとめることができる (知・技)
- 122. 外陰切除術 (単純外陰切除術, 広汎外陰切除術) の手術の助手をつとめることができる (知・技)
- 123. 膀胱, 尿管に関する手術の助手をつとめることができる (知・技)
- 124. 直腸, 肛門に関する手術の助手をつとめることができる (知・技)

放射線療法

GIO (一般目標)

放射線療法を適切に行えるようになるために, 放射線の種類と特性, 種々の治療法の種類と特徴ならびに患者管理について理解し, 適切に診療を実施するのに必要な知識・技能を獲得できる。

SBO (行動目標)

- 125. 電離放射線を分析し, その名称, 記号を列記することができる (知)
- 126. 放射線の量とそれを表現する単位を列記することができる (知)
- 127. 正常組織, 腫瘍組織の放射線感受性の差について記述することができる (知)
- 128. 婦人科腫瘍に対する放射線治療で用いられる放射線治療装置を挙げ, それらの特徴を説明できる (知)
- 129. 子宮頸癌, 子宮体癌, 卵巣癌, 外陰癌, 腔癌の定型的放射線治療について説明することができる (知)
- 130. 指導医のもとに, 上記疾患の治療法の選択を行い, また外科的治療, 放射線治療, 化学療法の相互関係, 集学的治療について説明することができる (知・技)

131. 子宮頸癌，子宮体癌の外照射法と腔内照射法の組み合わせについて説明することができる（知）
132. 子宮頸癌，子宮体癌，卵巣癌，外陰癌，腱痛の放射線治療の適応について理解し，説明することができる（知）
133. 子宮頸癌の放射線治療による5年生存率を進行期別に説明できる（知）
134. 照射野，腫瘍を観察し，その変化を評価することができる（知・技）
135. 放射線による早期障害について説明し，診断，治療を実施することができる（知・技・態）
136. 腔内照射を行う患者に治療内容を説明することができる（知、技、態）
137. 腔内照射の患者について，照射前後の局所の処置を行うことができる（知、技、態）
138. 放射線診療従事者の線量当量限度を説明できる（知）
139. 管理区域内での行動ができる（知・技）
140. 個人被曝線量計の装着の意義を理解し，実施できる（知・技）
141. 密封小線源の取扱い上の注意を説明できる（知）

婦人科 評価表
(レジデント/シニアレジデント) 名前:

レジデント 目標141項目	自己評価		自己評価 指導医名 ()	自己評価<指導医評価=○ 自己評価>指導医評価=△ 自己評価と指導医評価が ともに3点=◎
	自己評価	指導医評価		
良性腫瘍				
1. 外陰ストロフィーについて説明できる (知)	3 2 1 0	3 2 1 0		
2. バルトリン腺嚢胞について説明できる (知)	3 2 1 0	3 2 1 0		
3. 尿道カルンケルについて説明できる (知)	3 2 1 0	3 2 1 0		
4. 腱炎について説明できる (知)	3 2 1 0	3 2 1 0		
5. 子宮筋腫について説明できる (知)	3 2 1 0	3 2 1 0		
6. 子宮腺筋症について説明できる (知)	3 2 1 0	3 2 1 0		
7. 子宮内膜増殖症について説明できる (知)	3 2 1 0	3 2 1 0		
8. 子宮内膜ポリープについて説明できる (知)	3 2 1 0	3 2 1 0		
9. 子宮頸管ポリープについて説明できる (知)	3 2 1 0	3 2 1 0		
10. 卵巣良性腫瘍について説明できる (知)	3 2 1 0	3 2 1 0		
11. 卵巣類癌性疾患について説明できる (知)	3 2 1 0	3 2 1 0		
12. 卵巣上体嚢胞について説明できる (知)	3 2 1 0	3 2 1 0		
13. 子宮内腺症 (内性、外性) について説明できる (知)	3 2 1 0	3 2 1 0		
14. 乳腺症について説明できる (知)	3 2 1 0	3 2 1 0		
15. 乳腺線維腺腫について説明できる (知)	3 2 1 0	3 2 1 0		
16. 管内乳頭腫について説明できる (知)	3 2 1 0	3 2 1 0		
17. 視診、触診、双合診が実施できる (知・技)	3 2 1 0	3 2 1 0		
18. 超音波検査法を実施し、その結果を評価できる (知・技)	3 2 1 0	3 2 1 0		
19. 子宮卵管造影法を実施し、その結果を評価できる (知・技)	3 2 1 0	3 2 1 0		
20. 子宮腔部細胞診を実施し、その結果を評価できる (知・技)	3 2 1 0	3 2 1 0		
21. 子宮内膜細胞診を実施し、その結果を評価できる (知・技)	3 2 1 0	3 2 1 0		
22. コルポスコピーを実施し、その結果を評価できる (知・技)	3 2 1 0	3 2 1 0		
23. 組織生検を実施し、その結果を評価できる (知・技)	3 2 1 0	3 2 1 0		
24. 子宮鏡をできるだけ自ら経験し、その結果を評価できる (知・技)	3 2 1 0	3 2 1 0		
25. 腹腔鏡をできるだけ自ら経験し、その結果を評価できる (知・技)	3 2 1 0	3 2 1 0		
26. 手術摘出材料の取扱いを理解し、病理組織検査材料を提出することができる (知・技)	3 2 1 0	3 2 1 0		
27. 薬物療法 of 適応と限界を知り、適正な治療を実施することができる (知・技)	3 2 1 0	3 2 1 0		
悪性腫瘍				
28. 疫学について説明できる (知)	3 2 1 0	3 2 1 0		
29. 病理について説明できる (知)	3 2 1 0	3 2 1 0		

30.	初期病変について説明できる (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
31.	症状について説明できる (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
32.	早期診断について説明できる (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
33.	進行期分類 (FIGO, TNM)について説明できる (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
34.	予後因子について説明できる (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
35.	治療方針決定と治療法について説明できる (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
36.	治療後の管理・再発診断について説明できる (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
37.	予後について説明できる (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
38.	癌検診 (頸癌, 体癌, 乳癌) について説明できる (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
39.	外陰癌について説明できる (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
40.	ペーজেット病について説明できる (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
41.	ヒトパピローマウイルス関連病変について説明できる (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
42.	膣癌について説明できる (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
43.	子宮頸部異形成について説明できる (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
44.	子宮頸癌について説明できる (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
45.	異型子宮内膜増殖症について説明できる (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
46.	子宮体癌について説明できる (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
47.	子宮肉腫について説明できる (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
48.	絨毛性疾患について説明できる (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
49.	卵巣悪性腫瘍について説明できる (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
50.	卵管癌について説明できる (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
51.	乳癌について説明できる (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
52.	乳頭癌について説明できる (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
53.	病理組織の採取を実施しその結果を評価することができる (知・技)	3	2	1	0	3	2	1	0
54.	細胞診を実施しその結果を評価することができる (知・技)	3	2	1	0	3	2	1	0
55.	コルポスコピーを実施しその結果を評価することができる (知・技)	3	2	1	0	3	2	1	0
56.	超音波断層法を実施しその結果を評価することができる (知・技)	3	2	1	0	3	2	1	0
57.	腫瘍マーカーを実施しその結果を評価することができる (知・技)	3	2	1	0	3	2	1	0
58.	尿路造影を実施しその結果を評価することができる (知・技)	3	2	1	0	3	2	1	0
59.	CTを実施しその結果を評価することができる (知・技)	3	2	1	0	3	2	1	0
60.	MRIを実施しその結果を評価することができる (知・技)	3	2	1	0	3	2	1	0
61.	血管造影法を実施しその結果を評価することができる (知・技)	3	2	1	0	3	2	1	0
62.	シンチグラムを実施しその結果を評価することができる (知・技)	3	2	1	0	3	2	1	0
63.	膀胱鏡を実施しその結果を評価することができる (知・技)	3	2	1	0	3	2	1	0
64.	直腸鏡を実施しその結果を評価することができる (知・技)	3	2	1	0	3	2	1	0
65.	手術の適応, 薬剤の選択, 標準的投与方法, 効果判定方法を理解し, 副作用に対応できる (知・技)	3	2	1	0	3	2	1	0
66.	絨毛性疾患, 卵巣癌の治療の適応と限界を知り, 適正な治療を実施することができる (知・技)	3	2	1	0	3	2	1	0

67.	頸癌、体癌の治療の適応と限界を知り、適正な治療を実施することができる (知・技)	3	2	1	0	3	2	1	0
68.	外陰癌、肉腫などの治療の適応と限界を知り、適正な治療を実施することができる (知・技)	3	2	1	0	3	2	1	0
69.	再発腫瘍に対する治療について説明できる (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
70.	癌疼痛治療の実施でき、ターミナルケアの意義について説明できる (知・技)	3	2	1	0	3	2	1	0
71.	患者・家族に対する informed consent (説明と同意) に留意し、患者の quality of life (QOL) を尊重して診療を行い、ターミナルケアをも含めて、暖かい心を持って全人的に対応できる (知・態)	3	2	1	0	3	2	1	0
病理									
72.	子宮内臓の周期的変化する病理組織学所見について説明できる (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
73.	性器の炎症性疾患の病理組織学所見について説明できる (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
74.	ヒトパピローマウイルス関連病変、腹部びらん、頸部異形成、頸部上皮内癌 (carcinoma in situ; CIS)、微小浸潤癌、子宮頸癌の肉眼所見ならびに病理組織学所見について説明できる (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
75.	子宮筋腫、子宮内臓症、子宮内臓増殖症、子宮体癌、子宮肉腫の肉眼所見ならびに病理組織学所見について説明できる (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
76.	卵巣腫瘍、卵管腫瘍の肉眼所見ならびに病理組織学所見について説明できる (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
77.	絨毛性疾患の肉眼所見ならびに病理組織学所見について説明できる (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
78.	外陰ストロファイター、ペーজেット病、外陰癌、腫瘍の肉眼所見ならびに病理組織学所見について説明できる (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
79.	乳腺癌、乳癌の肉眼所見ならびに病理組織学所見について説明できる (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
80.	性器とくに子宮頸部ならびに子宮内臓の上皮細胞の基本的構造、悪性細胞の一般的な診断基準、判定分類とその推定組織病変について説明できる (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
81.	性器炎症性疾患の細胞診の意義を理解し、その結果に基づいて患者の取扱いについて指示することができる (知・技)	3	2	1	0	3	2	1	0
82.	内分泌細胞診の意義を理解し、その結果に基づいて患者の取扱いについて指示することができる (知・技)	3	2	1	0	3	2	1	0
83.	脱水細胞診、穿刺細胞診の意義を理解し、その結果に基づいて患者の取扱いについて指示することができる (知・技)	3	2	1	0	3	2	1	0
84.	子宮頸部狙い生検、頸管内臓腫瘍を行うために必要な手技・措置を講じることができる (知・技)	3	2	1	0	3	2	1	0
85.	子宮体部内臓腫瘍を行うために必要な手技・措置を講じることができる (知・技)	3	2	1	0	3	2	1	0
86.	手術摘出材料の観察と取扱いができる (知・技)	3	2	1	0	3	2	1	0
87.	主要病変の典型的な病理学的所見を理解できる (知・技)	3	2	1	0	3	2	1	0
88.	剖検を見学し、必要な手続ができる (知・技)	3	2	1	0	3	2	1	0
89.	細胞診検体の採取と取扱い、頸膺の典型的細胞診所見を説明できる (知・技)	3	2	1	0	3	2	1	0
90.	細胞診におけるその他の主要な悪性腫瘍の典型的所見を理解できる (知・技)	3	2	1	0	3	2	1	0
婦人科手術									
91.	婦人科治療における手術の位置づけと意義を説明できる (知)	3	2	1	0	3	2	1	0